



103<sup>th</sup>

第2四半期のご報告

平成23年4月1日～平成23年9月30日

株主の皆様へ



株式会社 サンエー化研

証券コード：4234

## 全社員一丸となり、 高収益体質への転換を図ります。



代表取締役社長

藤岡 宣隆

株主の皆様には、日頃より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。  
3月の東日本大震災で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

まず、第103期第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～9月30日）における、当社グループを取り巻く概況についてご説明させていただきます。

アメリカの個人消費の低迷や欧州での金融不安、新興国の成長鈍化傾向など、世界経済は回復力が弱まっております。国内では欧州の財政危機などに伴う円高により、メーカー各社が海外進出を加速する傾向が強まっております。また震災の影響によるサプライチェーンの寸断・電力供給不足などにより、経済活動は大幅に抑制される事態を招くなど、日本経済は依然として厳しい状況にあり、先行きの不透明感が一段と増しております。

このような状況下、当社グループでは安定的な需要が見込める食品用包材・エア緩衝材、また震災復興のための包装用資材などが売上を伸ばしたものの、地デジ移行完了に伴う液晶パネルの需要急減などにより、機能性保護フィルムの売上は低水準で推移しました。その結果、前年同期比で減収減益という厳しい業績となり、株主の皆様のご期待にお応えすることができませんでした。当社グループの業績につきましては、次項にてご説明させていただきます。

この結果を踏まえ、今後当社が生き残り、成長を続けていくためにも、収益性の改善が急務と考え、全社員が一丸となり、高収益体質への転換を図ります。同時に、創業以来培ってきた技術力と実績を基盤に、3事業部門が綿密な事業戦略を構築し、既成概念にとらわれることなく、斬新な発想と行動力で、業績回復に向けて邁進してまいります。

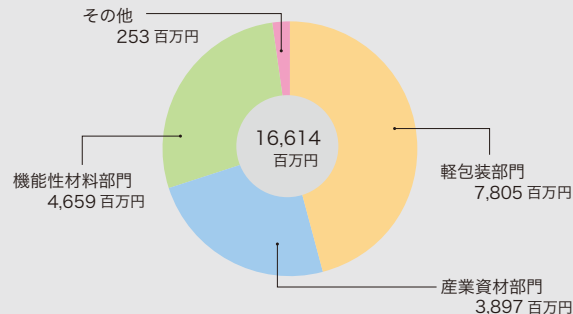
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

平成23年12月

## 第2四半期の業績概況

東日本大震災の影響による生産活動の停滞、欧州の財政危機再燃に伴う歴史的水準の円高などにより、日本経済はそれまでの回復基調から足踏み状態へと移行しました。

そのような状況下、当社グループでは、新製品開発のスピードアップや生産合理化の徹底に努めてまいりましたが、当連結累計期間における業績は、売上高16,614百万円（前年同期比7.2%減）、経常利益261百万円（前年同期比64.4%減）と厳しい結果となりました。



	第2四半期 (累計)	通期予想
売上高	16,614百万円	35,800百万円
営業利益	221百万円	690百万円
経常利益	261百万円	750百万円
四半期 (当期) 純利益	138百万円	450百万円

### 軽包装部門 連結売上高 7,805百万円

東日本大震災以降、食料備蓄に対するニーズの高まりや内食の機会が増えたことなどにより、食品包装が売上を伸ばしました。中でも、電子レンジ対応食品包材『レンジDo!』は、利便性の良さと品質安定性が評価され、受注が増加しました。また、エア緩衝材『エアロテクト』は、ユーザー様の罹災により一時的に受注が減少したものの、復旧とともに以前の受注水準まで回復し、震災の影響は限定的なものに留まりました。その結果、当連結累計期間の売上高は7,805百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

### 産業資材部門 連結売上高 3,897百万円

東日本大震災の支援・復興のための物資の流通が活発化したこともあり、包装・梱包用の樹脂クロス、布ポリラムなどの製品が大幅に売上を伸ばしました。また、スマートフォンやタブレット端末などの普及に伴い、FPC用工程紙『アドテラ』も順調に売上を伸ばすことができました。一方、従来品のセパレーターは、需要の低迷や安価な海外品の流入などにより、受注が減少しました。その結果、当連結累計期間の売上高は3,897百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

### 機能性材料部門 連結売上高 4,659百万円

地デジへの移行完了に伴う液晶パネル需要の急減、東日本大震災に伴う生産活動の停滞、世界的な景気減速傾向の強まりなどが影響し、保護フィルムの受注は低い水準で推移しました。一方、タッチパネル用芯なし両面テープ『SANCTUARY<sup>サンキユアリー</sup>』は、スマートフォンやタブレット端末などの普及に伴い、売上を伸ばしましたが、保護フィルムの受注減をカバーすることはできませんでした。その結果、当連結累計期間の売上高は4,659百万円（前年同期比22.6%減）となりました。

当社代表取締役社長 藤岡宣隆が当期の見通しと今後の戦略についてご説明します。

## コストイノベーションを推進し、 かつ独自技術の進化で体質強化に邁進します。



**Q** 第2四半期の業績について、  
どのようにお考えですか？

当第2四半期連結累計期間は、国内では東日本大震災の影響が表面化し、原材料の調達難、節電要請、関東・東北地区における生産活動の停滞など、天災と原発事故による、これまでにない異常な状況下にありました。また、世界的に景気の足踏み状態が続く中、欧州の財政危機が再燃し、結果として円相場は歴史的水準の円高へと推移しました。

このような社会情勢と経済環境を背景に、当社の業績は厳しい結果となりました。中でも、保護フィルムを核とする機能性材料部門がこれらの影響をより多く受けたことが減収減益の最大の要因です。

しかし、このような特異な環境下にあったこと以外に、製

品の収益性を高める工夫や努力が足りなかったことも原因の一つにあったのではないかと分析しています。従って、各部門に対して製品の収益性を高める方策の検討と実施について指示し、現状の改善に向けて行動を開始しました。私は、近い将来この努力が実を結び、当社の業績改善に貢献するような製品を生み出すことができると信じています。

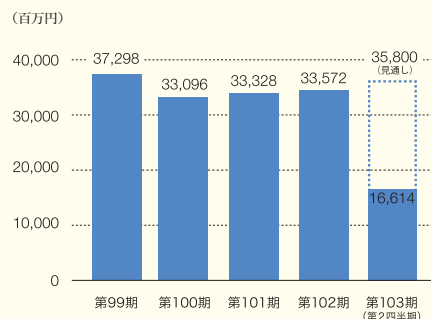
**Q** 第2四半期における  
事業部門ごとの評価をお聞かせください。

### 【軽包装部門】

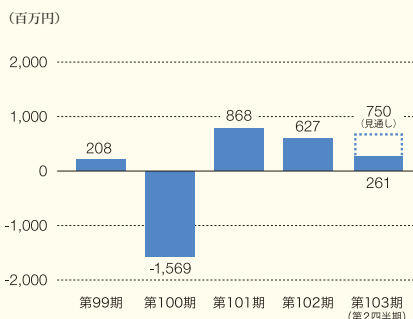
当初は、震災の影響で売上が大きく落ち込むのではないかと懸念していましたが、食料備蓄ニーズの高まりや、内食

## <財務ハイライト>

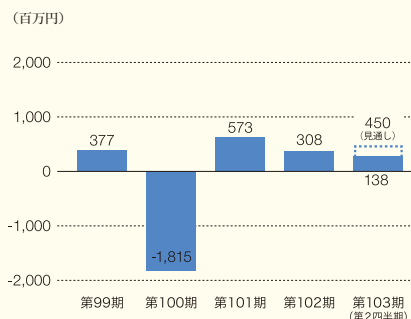
### ■売上高



### ■経常利益



### ■四半期 (当期) 純利益



の機会が増えたことなどにより、食品包装、とりわけ『レンジDo!』の受注が大幅に増加する結果となりました。

また、エア緩衝材『エアロテクト』も震災直後は一時的に受注が落ち込みましたが、ほどなく回復し、その後は安定的な売上を維持しました。特に『エアロテクト』は、緊急事態における事業中断リスクを最小限に抑えることを目的とするBCP<sup>※</sup>への対応が進んでいることから、ユーザー様に“安心”という付加価値も提供しています。そして、このことがこの製品の安定的な受注につながっているものと考えています。

※Business Continuity Plan=事業継続計画

#### 【産業資材部門】

震災の支援・復興物資の物流活発化に加え、ほとんど被災を受けなかった当社への委託製造が増加したこともあって、第1四半期は工場をフル稼働するなど、好調な滑り出しを見せました。第2四半期には新製品である電材用工程紙『アドテラ』が徐々に売上を伸ばし、利益確保に貢献しました。

この『アドテラ』は、IT機器に使用されるFPC（フレキシブルプリント基板）の製造に使用されるものですが、これまで、この業界に新規参入するのは難しいとされてきました。しかし、販売面の対応と品質の高さが認められ、今では順調に売

上を伸ばしています。

この製品に代表される特殊工程紙の分野は、市場規模は小さいながらも様々な製品の製造工程に拡がりつつある成長分野です。ユーザー様における『アドテラ』採用の広がりはこの分野への新たな市場開拓のチャンスであると考えています。

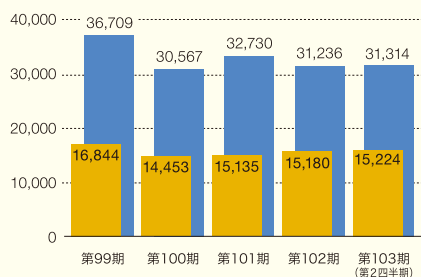
#### 【機能性材料部門】

昨年後半から続いていた液晶パネルの生産調整は、世界的な景気の停滞により完全な解消には至らず、また国内においては地デジへの移行完了などの影響で、液晶パネル需要は落ち込みが続いています。その結果、保護フィルムの売上が低迷し、当部門の業績低下の最大の要因となりました。

しかし、人気のスマートフォンやタブレット端末などに使用されるタッチパネル用芯なし両面テープ（OCA）『サンキュアリーSANCUARY』は、これまで寡占状態にあった市場への参入を果たし、国内外で実績をあげるなど、利益確保に貢献する製品へと成長しました。このことは、当部門が保護フィルム以外の製品展開を図る上で、一つの方向性を示してくれたものと考えています。

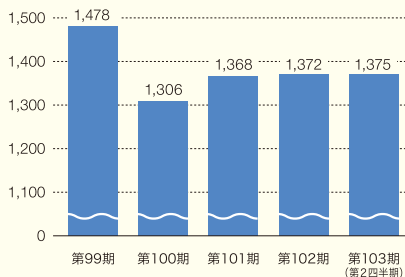
#### ■総資産・純資産

(百万円)



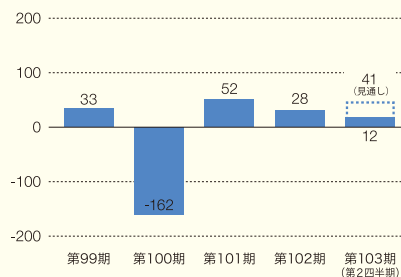
#### ■1株当たり純資産額

(円)



#### ■1株当たり四半期(当期)純利益

(円)



## Q 今後の事業戦略についてお聞かせください。

当社が将来にわたって成長・発展するためには、一刻も早く現状から脱却し、高収益をあげ続けることのできる企業体質への転換を図らなければなりません。

これまで当社では開発力や技術力の強化など直接的な施策が中心で、体質転換という視点で施策を立案することはありませんでした。高収益体質への転換を図るためには、人材・組織・製品・設備・社内制度にムダがなく、それぞれの関係が有機的な繋がりを保ち、会社の目的を効率的に達成することができる状態にあることが求められます。

当社は、部門共通の施策として高収益体質への転換に着手し、同時に以下の事業戦略を実施していきます。

### ① 軽包装部門：独自技術の進化と展開

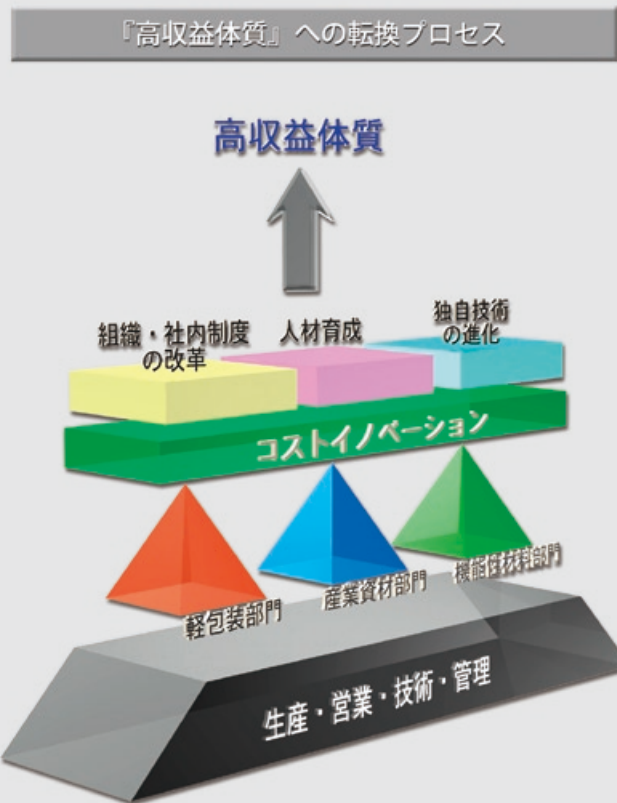
当部門の代表製品である『レンジDo!』の技術を応用した食品包装分野における新製品を開発・拡販するとともに、『レンジDo!』の海外展開を推進します。拡販中の新製品については、前期に開発した新タイプ(“ST”及び“セパレ”)を一般のお客様がスーパー・コンビニなどで普通に目にする状態にまで普及させることを目指します。海外展開については、当面、韓国・中国などをターゲットとして考えており、現在、現地の展示会に出展するなど、市場調査を行なっています。

### ② 産業資材部門：設備の新設・統廃合と新分野開拓

新たな設備投資を行なうとともに、既存設備の統廃合を進め、生産効率を高めます。また、『アドテラ』によって新規参入した電材用工程紙分野に続く新たな市場として、炭素繊維分野をターゲットとする新製品の開発・拡販を目指します。

### ③ 機能性材料部門：革新的な着想と技術による製品の具現化

これまでにない革新的な着想と技術による新製品の開発を行ないます。このような製品の代表例としては、前期に開発した新製品『サニテクト NSタイプ』があります。『サニテクト NSタイプ』は、それまでPETベースの保護フィルムでは常識とされていたセパレーターを使用することなく、要求品質を維持する画期的な製品です。今後はこの製品の拡販を推進するとともに、『PAC』についても同様の着想と技術によって、被着体の表面状態に左右されにくい汎用性の高い製品を開発していきます。



**Q** 高収益体質への転換を図るために、どのような取り組みをお考えですか？

今後は、業界内で競争優位な立場を確立することが急務です。そのためには生産部門に留まらず、営業・技術・管理・間接などすべての部門でコスト管理を徹底し、全社的なコストイノベーションを実現します。

また、組織や社内制度を改革し、業績改善に対する社員のモチベーションを高揚させるとともに、各社員の職務遂行能力を向上させる具体的な施策を講じます。

次に、各社員が職務を遂行するにあたり、全員のベクトルを“会社の成長・発展”という方向に揃えることが求められますが、これはひとえに社長である私のリーダーシップにかかっているとと言えます。社長という重責を改めて痛感しつつも、この取り組みは必ず完遂する所存です。



可愛らしいファッション性とシースルー効果で認知度アップ！

### エア緩衝材『ダブルパック』

空気を利用した、環境にも地球にも優しい緩衝材として定評のあるエア緩衝材。今までは、電子機器や衝撃に弱い製品などの保護材としての利用が主流でした。このエア緩衝材は内容物がよく見えるという、シースルー効果にも優れていることから、最近では意外な場所でもご利用いただいています。

インスタントラーメンの先駆けとして圧倒的な人気を誇る日清食品株式会社様では、インスタントラーメンのすべてが分かる『インスタントラーメン発明記念館』（大阪）、そして今年9月にオープンした『カップヌードルミュージアム』（横浜）を運営しています。中でも、人気ブース“マイカップヌードル・ファクトリー”コーナーで、お客様が作ったオリジナルカップヌードルを入れる手提げ袋として、当社のエア緩衝材『ダブルパック』が採用されています。商品の訴求効果はもちろん、手に下げたり、また肩から下げられるなどの利便性、そして可愛らしいこともあり、お子様や若い女性に好感を持って受け入れられています。このように、シースルー効果も高いエア緩衝材の活躍のシーンはますます広がるものと思われます。



**Q** 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社では、一昨年より太陽電池関連・二次電池関連・炭素繊維関連の部材など環境志向型フィルムの開発をはじめ、新分野開拓への取り組みを進めてまいりました。今後は、これらの取り組みを加速させながら、体質転換によって会社を筋肉質の組織に磨き上げ、高収益企業への転換を実現致します。

その上で、産業の発展や環境保全に寄与する製品、生活の利便性向上に役立つ製品の開発・供給を推進し、事業活動を通じて幅広く社会に貢献してまいります。

また、このような活動と併せて、経営の透明性確保とコンプライアンスを徹底し、社会的な企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## Information

セパレーターレスで  
作業効率・コスト削減に貢献

## 『サニテクト NSタイプ』

### ■従来の困難を克服し、製品化に成功した セパレーターレス保護フィルム

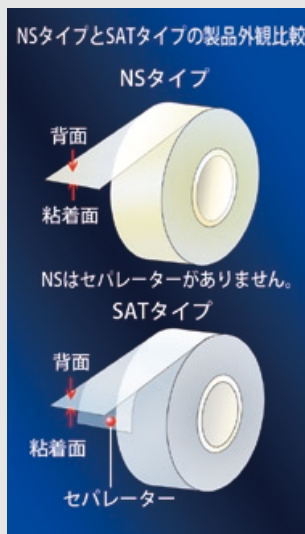
機能性保護フィルム『サニテクト』。偏光板などの光学部材から建設資材まで、幅広い分野でご利用いただき、高い評価を得ている保護フィルムです。

その『サニテクト』に、新製品『サニテクト NSタイプ』がラインアップしました。

『サニテクト NSタイプ』には、セパレーターがありません。通常、基材のPETフィルムに粘着剤をコーティングした保護フィルムはPETフィルムが硬いことからロール化しにくく、また気泡が入りやすいという欠点があるため、セパレーターのある製品が一般的でした。しかし、保護フィルムを貼り合わせる際にセパレーターを剥がし、そのセパレーターをゴミとして廃棄しなければなりません。そのため、「セパレーターのない保護フィルムで生産効率を上げたい」というニーズが多数寄せられていました。

このような市場ニーズの高まりを受け、開発したのが『サニテクト NSタイプ』。ニーズに応じてお選びいただけるよう、3タイプを発売しました。

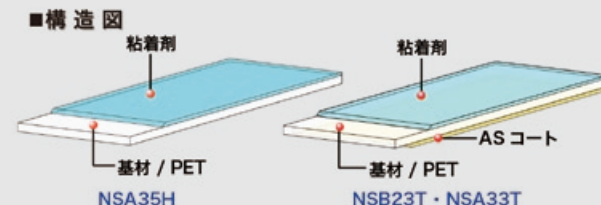
このように市場ニーズの高まりを受け、開発したのが『サニテクト NSタイプ』。ニーズに応じてお選びいただけるよう、3タイプを発売しました。



従来からセパレーターがないPET基材の保護フィルムはありましたが、ロール状では気泡が混入しており、糊残りがしやすいなど、不満が多く寄せられていました。このようなことから、セパレーターがないPET基材の保護フィルムを製造するには、高度な技術力が要求されていました。

新製品『サニテクト NSタイプ』は粘着剤の調整をはじめ、コーティング技術・加工技術など、当社のコアテクノロジーをフルに生かし、これらの問題点を解消。その結果、ロール化の際に気泡を最大限に軽減することができ、またロールから剥がす背面剥離力もスムーズなため、作業工程での負荷もほとんどありません。しかもセパレーターを剥がす作業もなくなり、セパレーターフィルムの廃材が発生しません。その上、輸送コストの削減が図れるなど、トータル面での高効率化を実現します。

『サニテクト NSタイプ』は品質への要求が高い光学用途向けに性能設計も行なうなど、これからの光学用保護フィルムのスタンダード製品となるものと確信しています。



## 海外ニュース

## 韓国・中国で“サンエー化研ブランド”の認知度アップを推進！



当社では発展著しいアジアを中心に、海外市場での拡販を推進しています。その一環として、またマーケティング調査のため、韓国・中国での展示会に出展しました。

### アジア3大国際パッケージング展示会 『KOREA PACK 2011』

世界23ヶ国・600社の包装機械・包装材料メーカーなどが一堂に会した、世界有数の展示会

『KOREA PACK 2011』。

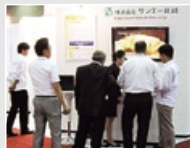
当社は、海外市場開拓のためのマーケティングと、電子レンジ対応包材の認知度アップを目的に、

『レンジDo!』、『サンシール』、

そして環境にも配慮した『エアロテクト』を中心に展出了しました。



平成23年6月14日～17日  
韓国高陽市 KINTEXにて開催



### タッチパネル関連展示会 『Touch Screen China 2011』

スマートフォンの普及など、タッチパネルの需要が急増する中国。当社でも、タッチ

パネル用芯なし両面テープ (OCA)

『SANCTUARY』を中心に、中国市場への進出を図っています。

その拡販活動の一環として昨年につき、上海で開催された『Touch Screen China 2011』（平成23年7月20日～22日）に出展しました。



## 国内ニュース

## 『第24回 インターフェックスジャパン』

恒例の『インターフェックスジャパン』に、今年も超高防湿シート『テクニフィルム』を出展しました。11回目の出展ということもあり、多くの製薬メーカー様より問合せやサンプル提供依頼を受けるなど、例年以上の手応えがありました。

なお、『テクニフィルム』は有機ELの保護フィルムなど、医薬品以外への新規用途展開も図っています。



平成23年6月29日～7月1日  
東京ビッグサイトにて開催

## 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当第2四半期末 (平成23年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成22年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
現金及び預金	4,048,773	4,616,927
受取手形及び売掛金	11,638,066	12,231,004
たな卸資産	4,608,965	4,022,528
その他	198,491	196,821
流動資産合計	20,494,296	21,067,282
建物及び構築物(純額)	3,110,108	3,281,658
機械装置及び運搬具(純額)	1,687,643	2,346,648
その他(純額)	2,426,181	2,503,620
有形固定資産合計	7,223,933	8,131,927
無形固定資産合計	38,494	64,104
投資有価証券	2,636,898	2,627,586
その他	921,159	780,124
投資その他の資産合計	3,558,058	3,407,711
固定資産合計	10,820,486	11,603,743
資産合計	31,314,782	32,671,025
<b>負債の部</b>		
支払手形及び買掛金	7,554,075	7,614,624
短期借入金	3,803,000	4,427,000
その他	2,343,729	2,715,769
流動負債合計	14,757,393	14,757,393
長期借入金	1,249,215	1,022,100
その他	1,140,224	1,604,142
固定負債合計	2,389,439	2,626,242
負債合計	16,090,244	17,383,635
<b>純資産の部</b>		
資本金	2,176,000	2,176,000
資本剰余金	2,135,839	2,135,839
利益剰余金	10,568,317	10,641,712
自己株式	△ 116,939	△ 116,912
株主資本合計	14,763,217	14,836,639
その他の包括利益累計額	331,852	331,940
新株予約権	7,849	—
少数株主持分	121,618	118,810
純資産合計	15,224,538	15,287,389
負債純資産合計	31,314,782	32,671,025

## 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
売上高	16,614,696	17,912,915
売上原価	14,860,491	15,628,812
売上総利益	1,754,205	2,284,103
販売費及び一般管理費	1,532,396	1,592,458
営業利益	221,808	691,644
営業外収益	104,905	102,189
受取利息	256	686
受取配当金	39,367	34,214
その他	65,281	67,288
営業外費用	65,436	60,165
支払利息	39,618	57,010
その他	25,818	3,154
経常利益	261,277	733,669
特別利益	1,171	18,336
特別損失	6,893	77,649
税金等調整前四半期純利益	255,554	674,356
税金費用	112,487	304,562
少数株主利益	4,582	2,715
四半期純利益	138,484	367,077

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

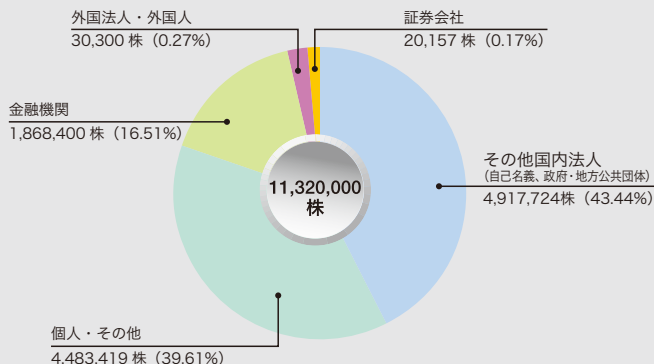
(単位：千円)

科目	当第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 52,066	628,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 71,771	△ 170,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 389,692	△ 745,822
現金及び現金同等物の増減額	△ 513,529	△ 288,059
現金及び現金同等物の期首残高	4,562,302	4,904,987
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,048,773	4,616,927

## 株式の状況 (平成23年9月30日現在)

- 発行可能株式総数……………45,000,000 株
- 発行済株式の総数……………11,320,000 株
- 株主数…………… 2,667 名

## ●所有者別株式分布状況



## ●大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率 (%)
新生紙バルブ商事株式会社	1,812,200	16.51
昭和ボックス株式会社	1,244,200	11.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	461,800	4.20
サンエー化研社員持株会	350,900	3.19
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	310,000	2.82
みずほ信託銀行株式会社	300,000	2.73
双日プラネット株式会社	227,000	2.06
株式会社みずほ銀行	200,000	1.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	163,900	1.49
山田 次夫	136,500	1.24

1. 当社は自己株式を348,124株保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は自己株式(348,124株)を控除しております。
3. 『日本マスタートラスト信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて信託業務に係るものです。なお、それらの内訳は投資信託設定分146,800株、昭和ボックス株式会社の退職給付信託300,000株、及び株式会社巴川製紙所の退職給付信託15,000株となっております。
4. 『みずほ信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて昭和ボックス株式会社の退職給付信託に係るものです。
5. 『日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて投資信託設定分です。

## 会社データ (平成23年9月30日現在)

## ●会社概要

商 号 株式会社サンエー化研  
 本 社 所 在 地 東京都中央区日本橋本町 1-7-4  
 事 業 所 関西支店、名古屋営業所、静岡営業所  
 静岡工場、袋井工場、掛川工場、奈良工場  
 研究所  
 台湾駐在員事務所  
 設 立 昭和17年9月  
 資 本 金 21億76百万円  
 従 業 員 数 576名  
 主 な 事 業 内 容 紙、プラスチック、金属箔等を主原材料とする軽包装材料、剥離紙、粘着  
 テープ基材、表面保護フィルム等、包装材料関連製品の製造と販売

## ●連結子会社

東邦樹脂工業株式会社

本社・工場/栃木県下都賀郡野木町野木148

## ●役員

代表取締役社長 藤 岡 宣 隆  
 専 務 取 締 役 武 智 利 文  
 常 務 取 締 役 林 喜久雄  
 取 締 役 藤 岡 貞 章  
 取 締 役 天 野 松 雄  
 取 締 役 篠 田 光 史  
 取 締 役 山 本 明 広  
 常 勤 監 査 役 大 嶋 幹 夫  
 監 査 役 佐 藤 隆  
 監 査 役 佐 々 木 英 一

(注) 監査役 佐藤 隆、及び佐々木 英一の  
 両氏は、社外監査役です。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード
公告の方法	電子公告により行なう 公告掲載URL <a href="http://www.sun-a-kaken.co.jp">http://www.sun-a-kaken.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じた時には、 日本経済新聞に公告致します)

## [株式事務に関するお問い合わせ]

- (1) 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求などのお申出先について  
証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。  
証券会社に口座がないため特別口座に記録されている株主様は、当社の特別口座管理機関(兼株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
- (2) 払渡期間経過後のお取り扱い  
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

当社ホームページの〈投資家情報〉では、詳細なIR情報を掲載しております。  
また新製品情報をはじめ、業務内容や最新の企業情報についてもご覧いただけます。  
昨年、海外戦略の一環として開設致しました英語版サイトも、ぜひご覧ください。

<http://www.sun-a-kaken.co.jp>

## 『株主様アンケート』にご協力をお願い致します。

当社では、株主の皆様のご貴重なお意見・ご要望をお聞かせいただき、より充実したIR(投資家向け広報)活動を推進できるよう、また今後の参考にさせていただくため、株主の皆様へのアンケートを実施致します。

つきましては、同封のアンケートはがきにご回答の上、ご返送くださいますよう、お願い申し上げます。皆様の忌憚のないご意見をお待ち致しております。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※アンケートはがきは、切手を貼らずにご投函ください。

